

## 24 茨城（未周知）

①所在地 石岡市茨城 3丁目14331 ②開発面積 852m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年9月11日 ④調査原因 集合住宅建設 ⑤調査担当者 小杉山大輔 ⑥調査概要 周知の遺跡の範囲外だが、土器が採集され、遺跡の存在する可能性を考えられたため、試掘調査を行った。開発区域内に17ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは20～40cm程度。

## 25 町塚遺跡（範囲変更）

①所在地 石岡市井関字代田52番1、53番4 ②開発面積 626m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年10月3日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要

開発地は町塚遺跡の周辺地にあたり、現地踏査の結果土器が採集され、遺跡の存在する可能性を考えられたことから、試掘調査を行った。開発区域内に18ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代の堅穴住居跡や土坑を確認した。この結果を受け、町塚遺跡の範囲を拡大した。この開発に伴い、平成24年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。



写真 10 町塚遺跡 発掘調査全景（北から）

（写真提供：有限会社 三井考測）

## 26 瓦谷（未周知）

①所在地 石岡市瓦谷764ほか ②開発面積 175,000m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年10月5日～10日 ④調査原因 農道整備 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に27ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構は確認されなかった。 ⑦遺物 1は須恵器の甕。灰色。白色粒・黄褐色粒・黒色粒少量含む。試掘トレンチ出土。今回の調査地点の西側にあたる野田館跡では、平成24年度に発掘調査を実施しており、中世の城館跡のはか、古墳時代後期の堅穴住居跡や古代の土器が検出されている（曾根・小野・根本2013）。今回の調査では須恵器が出土したのみだが、調査地点が台地縁辺部および斜面部であったことから、台地平坦部には遺跡の存在する可能性が考えられる。



図 21 瓦谷 調査地点位置図 (S=1/15,000)

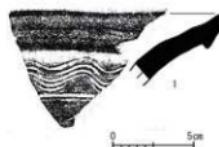


図 22 瓦谷 出土遺物 (S=1/3)

<引用文献>

曾根俊雄・小野麻人・根本康弘2013『野田館跡—農村交流基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一』石岡市教育委員会・関東文化財振興会株式会社

## 27 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松1丁目8756番2 ②開発面積 742m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年10月19日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 小杉山大輔 ⑥調査概要 開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを重複にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、T-2およびT-4において竪穴住居跡を確認した(SI01～02)。確認面までの深さは20cm～40cm。SI01は東西幅3.7mで、北壁にカマドが付設されている。時期把握のための掘り下げたところ、土器部の甕や須恵器の蓋等が出土している。SI02は南北幅3.2mで、北壁にカマドが付設されている。鉄滓が出土している。⑦遺物 各遺物に関する詳細は別表(表1)の通り。23は繩文土器である。常滑焼や天目茶碗など中世まで遡る可能性のある遺物も少数存在するが、ほとんどは奈良・平安時代の遺物である。瓦類としては平瓦・

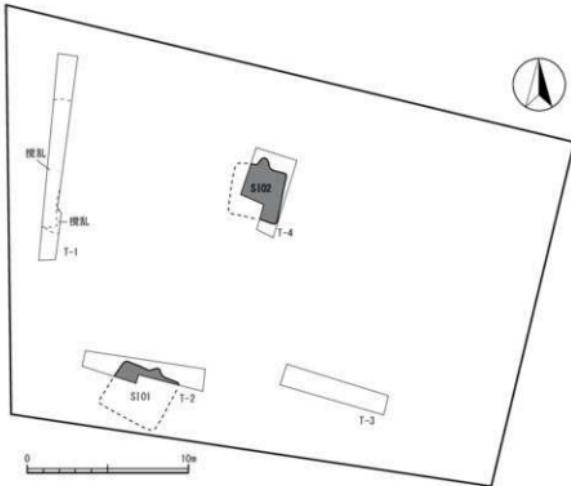


図23 尼寺ヶ原遺跡 全体図 (S=1/300)



写真 11 T-2 (北東から)



写真 12 T-4 (北東から)

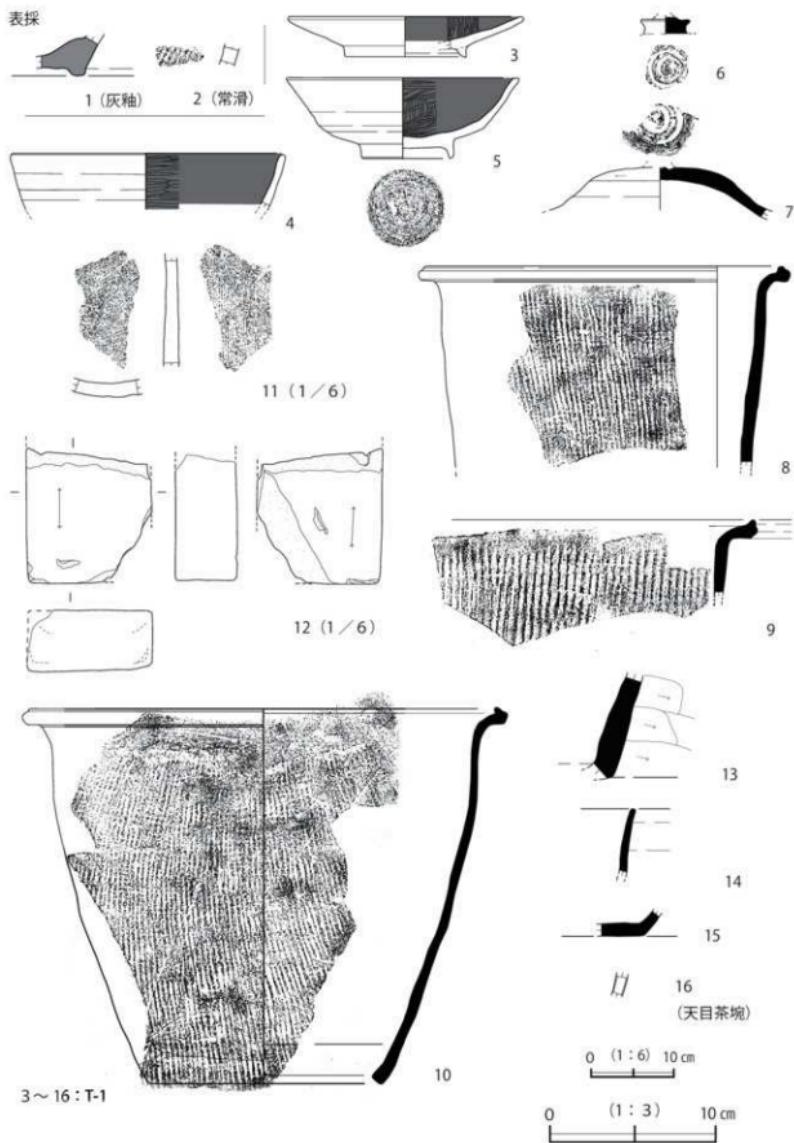


図 24 尼寺ヶ原遺跡出土遺物 (1) S=1/3, 1/6

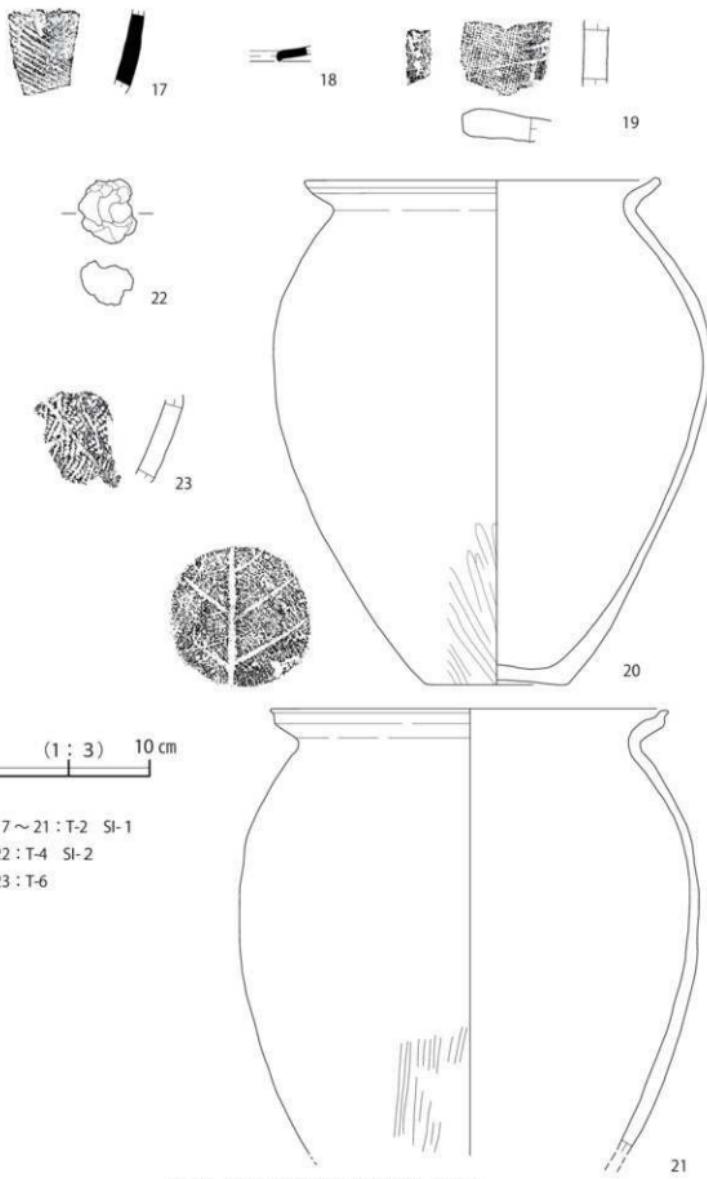


図25 尼寺ヶ原遺跡出土遺物(2) S=1/3

表1 尼寺ヶ原遺跡 出土遺物観察表

遺物番号	出土場所	種別・器種	備考
1	表探	灰釉陶器・瓶類	灰白色。白色粒わずかに含み。胎土精微。焼成良好。
2	表探	常滑焼・甕類	暗褐色。白色粒少し。焼成良好。外面叩き目。
3	T-1 掘乱	土師器・台付皿	明褐色。白色粒・白雲母少し含む。胎土精微。焼成良好。内面ミガキ及び黑色處理。
4	T-1	土師器・甕	口径(16.8cm)。橙褐色。白色粒・黑色粒・金雲母少し含む。胎土精微。焼成良好。内面黒色處理。
5	T-1	土師器・甕	口径(14.0cm)。器高5.0cm、高台径5.5cm。明褐色。白色粒・白雲母多い。焼成良好。内面ミガキ及び黑色處理。
6	T-1 掘乱	須恵器・蓋	青灰色。白色粒・白雲母少し含む。焼成良好。
7	T-1 掘乱	須恵器・蓋	暗褐色。白色粒・透色粒・白雲母少し含む。焼成普通。
8	T-1	須恵器・甕	暗褐色。白色粒多い。白雲母少し。焼成良好。外面叩き目。
9	T-1	須恵器・甕	暗褐色。白色粒・白雲母少し。焼成普通。外面叩き目。
10	T-1	須恵器・甕	口径(28.4cm)、底径(14.0cm)、器高23.3cm。暗灰褐色。白色粒多い。白雲母少し。焼成良好。
11	T-1	瓦・平瓦	黄褐色。白色粒・白雲母少し含む。焼成普通。凸面長縫叩き・凹面布目。
12	T-1	瓦・壇	幅15.5cm、厚さ7.5cm。暗褐色。白色粒多く・白雲母少し。焼成普通。
13	T-1	須恵器・甕か	明黃褐色。白色粒少し・目立つ多い。胎土精微。焼成普通。外側ケツリ。
14	T-1	須恵器・甕	灰白色。白色粒・白雲母多い。焼成やや悪い。
15	T-1	須恵器・甕	暗褐色。白色粒多い。焼成普通。体側トーラ削り。
16	T-1	天目茶碗・碗	黑褐色から茶褐色。白色粒少し。焼成良好。
17	T-2 SI-1	須恵器・甕類	淡灰褐色。白色粒少し・白雲母多い。焼成やや悪い。
18	T-2 SI-1	須恵器・甕	明灰褐色。白色粒・白雲母少し。焼成良好。
19	T-2 SI-1	瓦・平瓦	淡灰褐色。白色粒少し・白雲母多い。焼成普通。凹面觸目。
20	T-2 SI-1	土師器・甕	口径21.8cm、底径8.6cm、器高31.3cm。明褐色。白色粒多く・白雲母少し。焼成良好。外側底部下半にミガキ。底部木葉痕。
21	T-2 SI-1	土師器・甕	口径(24.0cm)。暗橙褐色。白色粒多く・白雲母少し。焼成普通。外側底部下半にミガキ。
22	T-4 SI-2	鉄津・輪状器	—
23	T-6	繩文土器・深鉢	明褐色。白色粒・金雲母多い。焼成良好。外側沈線及び縞文を施す。

埠が出土している。22はSI-2出土の鉄津である。輪状の断面形を呈する。SI-2からは年代の分かる遺物は出土していないが、出土状況から奈良・平安時代のものであろう。SI-1からは土師器・須恵器が確認されており奈良・平安時代の遺構である。

## 28 尼寺ヶ原遺跡

- ①所在地 石岡市若松3丁目8669-2 ②開発面積  
331m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年10月24日 ④調査原因  
個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥調査概要

開発区域内に11ヶ所の試掘トレーンチを設定し、遺



写真13 尼寺ヶ原遺跡 調査風景

跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは35~45cm程度。

## 29 鹿の子遺跡（第42次）

- ①所在地 石岡市鹿の子1丁目9375番14 ②開発面積 261m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年10月26日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に7ヶ所の試掘トレーンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、各トレーンチにおいて碎石を含む造成土を確認した。一部トレーンチでは造成土の掘り下げを行ったが、地山は確認できなかったことから、当地は過去の造成によって大きく変更されているものと判断した。遺物は出土していない。

### 30 宮部遺跡（第7地点）

①所在地 石岡市若宮2丁目152-1 ②開発面積  
320m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年10月29日 ④調査原因  
個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥調査概要

開発区域内に13ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、竪穴住居跡や土坑・ピットを確認した。また、縄文時代や奈良・平安時代の土器が出土した。この開発に伴い、平成24年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。



写真14 宮部遺跡（第7地点）全景（西から）

### 31 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松3丁目8673-11 ②開発面積 496m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年11月14日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥

調査概要 開発地は常陸国分尼寺跡の北東約400m、山王川南岸の微高地に位置する。周辺地は平成21年以降住宅建設に伴い、複数回の試掘調査を実施しており、遺構は確認されていないが、縄文時代前期の土器が採集・出土している（小杉山・曾根2012）。開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発区域の東側で埋没谷を確認したが、遺構は確認されなかった。ローム面までの深さは50～60cm程度。表土中より縄文土器が出土している。⑦遺物 1は縄文土器。外表面暗赤褐色、内面にぶい褐色。白色粒、黄褐色粒・半透明粒少量含む。試掘トレンチ出土。



写真15 SK05 遺物出土状況

<引用文献>小杉山大輔・曾根俊雄2012「市内遺跡調査報告書 第7集」石岡市教育委員会

### 32 鹿の子遺跡（第43次）

①所在地 石岡市鹿の子1丁目9361-5 ②開発面積 439m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年11月

22日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥調査概要 開発地は常磐自動車道建設に伴う発掘調査が行われた、いわゆる「鹿の子A遺跡」の西約150m内外のところに位置する。鹿の子A遺跡では8世紀後半～10世紀の竪穴住居跡などが検出されている。周辺地は住宅建設に伴う試掘・発掘調査を実施しており、奈良・平安時代の竪穴住居跡や縄文時代の陥し穴が検出されている（第24・30・38次）。開発区域内に20ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、竪穴住居跡や土坑を確認した。この開発に伴い、平成24年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。

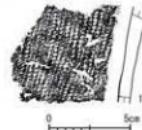


写真16 鹿の子遺跡（第43次）全景

### 33 根古屋遺跡（第4次）

①所在地 石岡市東大橋  
1783番地ほか ②開発面積

7,728m<sup>2</sup> ③調査日 平

成24年11月29日～12月12

日 ④調査原因 グラウン

ドゴルフ場整備 ⑤調査担

当者 小杉山大輔 ⑥調査

概要 根古屋遺跡は国部川

右岸の台地上から微高地上

に位置する。開発地の周辺

にあたる第1次調査2区や

第2次調査地点では、縄文

時代中期の堅穴住居跡や土

坑群を確認している（小杉

山・曾根2010・2011）。開

発区域内に100ヶ所の試掘

トレンチを人力にて設定

し、遺跡の有無を確認した。

その結果、縄文時代中期の

土坑を13基確認した。土坑

は径1～1.5m程度だが、

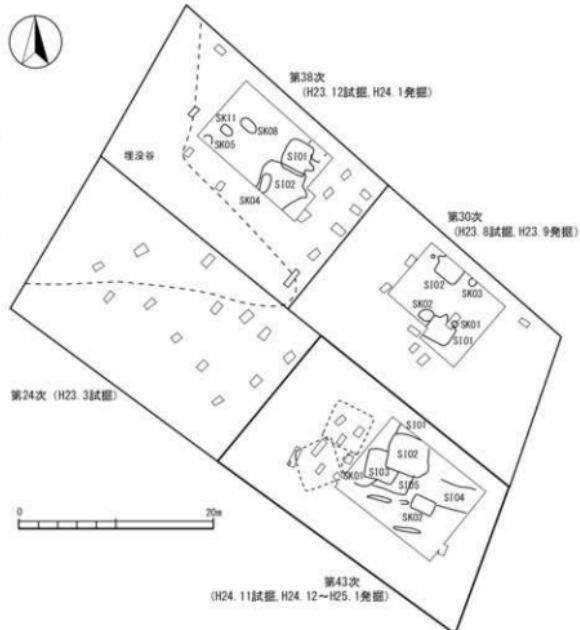


図27 鹿の子遺跡（第43次）全体図（S=1/500）



図28 根古屋遺跡 調査地点位置図（S=1/5,000）

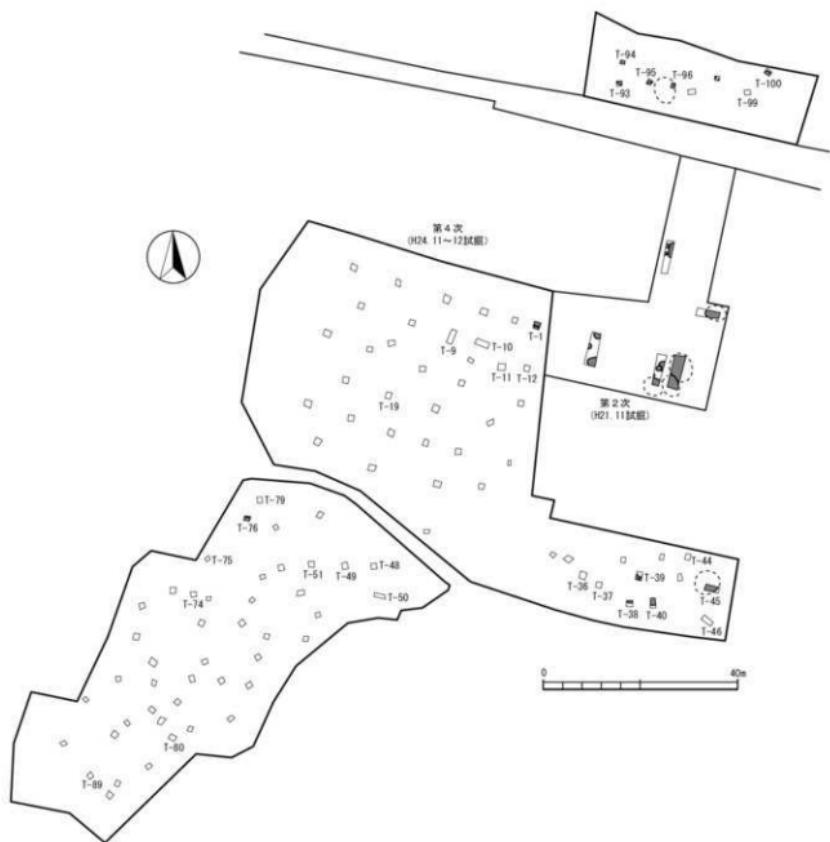


図29 根古屋遺跡（第4次）調査地点全体図 (S=1/1,000)



写真17 T-1 (北から)



写真18 T-100 (西から)

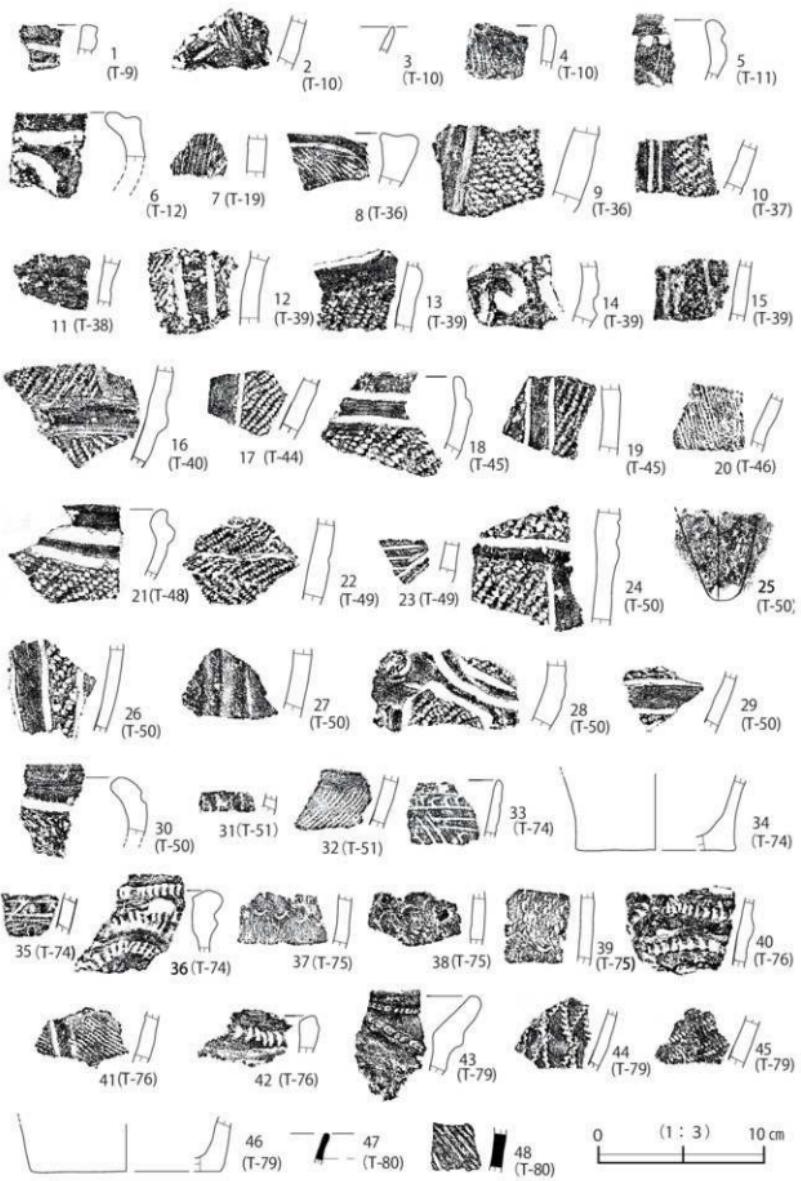


図 30 横古屋遺跡出土遺物 (1) 1/3

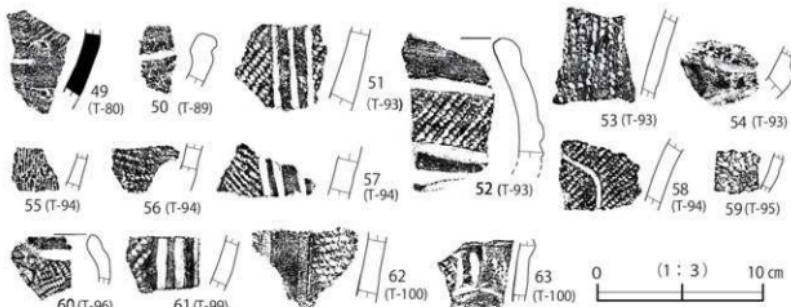


図 31 根古屋遺跡出土遺物 (2) S-1/3

表 2 横古屋遺跡 出土遺物観察表 (1)

遺物番号	出土場所	種別・器種	備考
1	T-9	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・白雲母多い。焼成良好。沈線を施す。
2	T-10	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒少。焼成良好。2条の沈線。
3	T-10	土師器・环	暗褐色。白色粒・白雲母多い。焼成良好。
4	T-10	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・黒雲母多い。焼成良好。外面網文施す。
5	T-11	網文土器・深鉢	黄褐色。白色粒少。焼成普通。
6	T-12	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・金雲母多い。焼成良好。陰帯を施す。
7	T-19	網文土器・深鉢	暗黃褐色。白色粒・白・金雲母少し含む。焼成良好。外面刷毛状工具による施文。
8	T-36	網文土器・深鉢	白色粒少。焼成普通。沈線に網文を充填。
9	T-36	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・黒色粒多い。焼成良好。縦位に沈線、網文を施す。
10	T-37	網文土器・深鉢	暗黃褐色。白色粒・金雲母多い。焼成良好。縦位の並行沈線と網文。
11	T-38	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒多い。焼成普通。網文を施す。
12	T-39	網文土器・深鉢	暗黃褐色。白色粒・金雲母多い。焼成良好や悪い。縦位の沈線に網文。
13	T-39	網文土器・深鉢	暗黃褐色。白色粒・金雲母少し。焼成良好。1条の沈線に網文。
14	T-39	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・白雲母多い。焼成普通。陰帯を施す。
15	T-39	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・金雲母多い。焼成普通。縦位に並行沈線。
16	T-40	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・白雲母多い。焼成良好。横位の陰帯に網文。
17	T-44	網文土器・深鉢	明暗褐色。白色粒・薄色粒・金雲母少し。焼成普通。1条の沈線に網文を充填。
18	T-45	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・白雲母多い。焼成普通。2条の沈線に網文。
19	T-45	網文土器・深鉢	赤褐色。白色粒多い。焼成普通。2条の沈線に網文。
20	T-46	網文土器・深鉢	暗黃褐色。白色粒・金雲母多い。焼成良好。陰帯を施す。
21	T-48	網文土器・深鉢	明暗褐色。白色粒・白雲母多い。焼成良好。陰帯に平行して2条の沈線。
22	T-49	網文土器・深鉢	暗黃褐色。白色粒・薄色粒を少し含む。焼成普通。羽状網文。
23	T-49	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒少。焼成良好。半裁竹管による平行沈線。
24	T-50	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒少・含む。焼成悪い。沈線と網文。
25	T-50	網文土器・深鉢	黄褐色。白色粒・金雲母多い。焼成普通。網文早期の尖底土器。
26	T-50	網文土器・深鉢	暗赤褐色。白色粒・金雲母少し。焼成良好。外面沈線に網文。
27	T-50	網文土器・深鉢	明褐色。白色粒多。焼成良好。縦位の陰帯。
28	T-50	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒多。焼成良好。外面沈線と網文。
29	T-50	網文土器・深鉢	赤褐色。白色粒・白雲母少し。焼成良好。縦位の沈線に網文。
30	T-50	網文土器・深鉢	明暗褐色。白色粒・金雲母少し。焼成良好。沈線と網文。
31	T-51	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・白雲母少し。焼成普通。貝の復縫部による施文。
32	T-51	赤生土器・深鉢	暗黃褐色。白色粒・白雲母少し。焼成良好。外面網文。
33	T-74	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒多い。焼成普通。半裁竹管による施文。
34	T-74	網文土器・深鉢	暗黃褐色。白色粒少。焼成普通。内外面底部ナラ。
35	T-74	網文土器・深鉢	明暗褐色。白色粒・金雲母少し。焼成良好。外面半裁竹管。
36	T-74	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・白雲母少し。焼成良好。陰帯に押引文。
37	T-75	赤生土器・深鉢	暗黃褐色。白色粒少。焼成良好。横位に波状文。
38	T-75	赤生土器・深鉢	褐色。白色粒・白雲母少し。外面保付着。焼成良好。外面波状文。
39	T-75	赤生土器・深鉢	暗黃褐色。白色粒・白雲母少し。焼成普通。横位に波状文。
40	T-76	網文土器・深鉢	赤褐色。白色粒多。白雲母少し。焼成普通。陰帯に連續爪形文。
41	T-76	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・白雲母少し。焼成良好。縦位の陰帯に網文。
42	T-76	網文土器・深鉢	明褐色。金雲母多。白色粒少し。焼成普通。連續した爪形文。
43	T-79	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・金雲母多。焼成普通。陰帯に押引文。
44	T-79	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒・金雲母少し。焼成良好。貝殻の復縫部による施文。
45	T-79	網文土器・深鉢	暗褐色。白色粒多。焼成普通。外面網文。

表3 根古屋遺跡 出土遺物観察表(2)

遺物番号	出土場所	種別・器種	備考
46	T-79	縄文土器・深鉢	暗褐色、白色粒・金雲母多い。焼成良好。外面ナデ。
47	T-80	須恵器・壺	灰褐色、白色粒多い。焼成普通。
48	T-80	須恵器・壺	暗褐色、白色粒多い。焼成良好。外商平行印文。
49	T-80	須恵器・壺	暗褐色、白色粒多い。焼成良好。下部へラ削り。上部平行叩き。
50	T-89	縄文土器・深鉢	暗褐色、白色粒・金雲母多い。焼成良好。縦位の押引文。
51	T-93	縄文土器・深鉢	黃褐色、白色粒・金雲母多い。焼成良好。縦位の沈線に繩文。
52	T-93	縄文土器・深鉢	暗褐色、白色粒多い。焼成良好。沈線による区画に繩文を充填。
53	T-93	縄文土器・深鉢	黃褐色、白色粒・白雲母少。焼成良好。繩文を施す。
54	T-93	縄文土器・深鉢	暗褐色、白色粒少。焼成普通。陰面を貼付。
55	T-94	縄文土器・深鉢	黃褐色、白色粒少。焼成良好。外面条痕状工具による施文。
56	T-94	縄文土器・深鉢	暗褐色、白色粒・赤色粒少。焼成良好。外面繩文。
57	T-94	縄文土器・深鉢	黃褐色、白色粒少。焼成良好。外面縦位の沈線に繩文。
58	T-94	縄文土器・深鉢	暗褐色、白色粒・白雲母多い。焼成良好。1条の沈線に繩文。
59	T-95	縄文土器・深鉢	暗褐色、白色粒・金雲母少。焼成良好。外面繩文。
60	T-96	縄文土器・深鉢	暗褐色、白色粒多。焼成良好。1条に沈線に繩文。
61	T-99	縄文土器・深鉢	黃褐色、白色粒・白雲母多い。焼成良好。縦位の沈線に繩文。
62	T-100	縄文土器・深鉢	暗褐色、白色粒・金雲母多い。焼成普通。縦位に2条の沈線。
63	T-100	縄文土器・深鉢	黃褐色、白色粒少。焼成良好。沈線による区画に繩文。

T-45・96のものについては径がやや大きくなることから住居跡の可能性も考えられる。②遺物 各遺物に関する詳細は別表(表2・3)の通り。古相を示す遺物としては25の尖底土器が縄文時代早期のものである。縄文時代前期の遺物としては22のような纖維を含み羽状繩文を施すもの、23のように半截竹管による平行弦縫を施すもの、44のように貝殻復縫部による施文を行うものがあり、前期でも前半のものと後半のものが存在する。中期のものでは36のように押引文を施す阿玉台式のものも存在するが全体的には加曾利E式が多い。32・37・38・39は弥生時代のものと思われる。37から39は横位の波状文を施すところが一致している。土師器・須恵器は確認されているが小破片である。土師器は3の壺が1点のみである。須恵器は壺が1点と甕が2点である。壺の形態から奈良・平安時代のものと思われる。以上、小破片であるが縄文時代早期から奈良・平安時代の遺物が確認された。

#### <引用文献>

小杉山大輔・曾根俊雄2010『市内遺跡調査報告書 第5集』石岡市教育委員会

小杉山大輔・曾根俊雄2011『市内遺跡調査報告書 第6集』石岡市教育委員会

### 34 東大橋原遺跡

①所在地 石岡市東大橋字原1669番、1668番2 ②開発面積 516m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年12月14日～19日

④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 小杉山大輔 ⑥調査概要 開発区域内外に32ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良時代の堅穴住居跡1軒(SI01)、縄文時代中期の土坑1基(SK01)、古墳時代前期の土坑1基(SK02)を確認した。SI01は北壁にカマドを有する住居跡で、出土土器から7世紀末から8世紀前葉と考えられる。SK02については、時期の確認のため掘り下げを行ったところ、古墳時代前期の土師器が出土している。方形を呈するが、硬化した床面や壁溝は確認できなかつたことから土坑とした。⑦遺物 各遺物に関する詳細は別表(表4)の通り。3、4は撚糸文を施し古相を示す。18のように羽状繩文を施すものや8などのように貝殻の復縫部で施文が行われるものなど縄文時代前期前半の遺物も存在する。15は縄文時代中期のも



写真19 東大橋原遺跡 調査風景

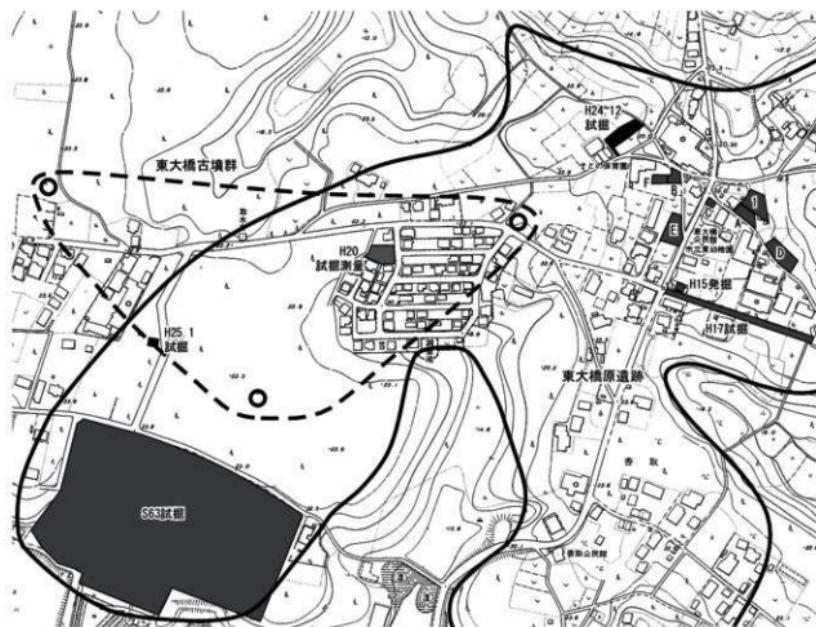


図 32 東大橋原遺跡 調査地点位置図 (S=1/5,000)

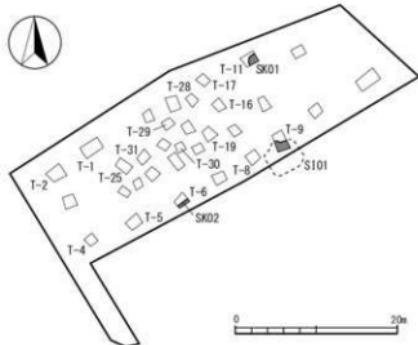
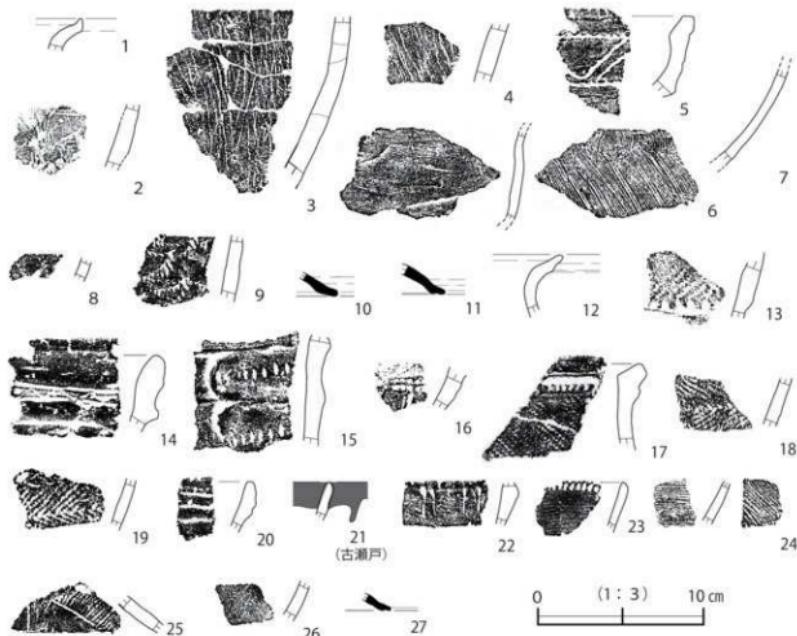


図 33 東大橋原遺跡 全体図 (S=1/500)



写真 20 T-9 (東から)

ので阿玉台式である。13のように弥生時代後期のものが出土している。25も弥生時代か。SK01からは11のようにかえりの残る須恵器の蓋が検出されており7世紀末から8世紀前葉の遺構と思われる。中世の遺物としては瓦質の擂鉢が確認されている。以上、小破片が多いが縄文時代早期から中世にかけての遺物が確認されている。



1:T-1 2:T-2 3, 4:T-4 5, 6:T-5 7:T-6 8, 9:T-8 10:T-9 11, 12:T-9 SI-1  
13:T-16 14:T-17 15:T-19 16~18:T-25 19:T-28 20:T-29 21:T-30 22~27:T-31

図34 東大橋原遺跡 出土遺物 (S=1/3)

遺物番号	出土場所	種別・器種	備考
1	T-1	土師器・壺	黄褐色、白色粒・透明白粒・白雲母少し含む。施成良好。
2	T-2	瓦質土器・深鉢	暗灰褐色、白色粒・白雲母少し。焼成普通。内部横ナデの後、5か6条の櫛目。
3	T-4	繩文土器・深鉢	明褐色、白色粒・白雲母少し。焼成普通。外面部燃系文。
4	T-4	繩文土器・深鉢	褐色、白色粒・白雲母少し多い。焼成普通。外面部燃系文。
5	T-5	繩文土器・深鉢	暗棕褐色、白色粒少し。金雲母多い。焼成良好。外面部は押引文。
6	T-5	土師器・壺	褐色、白色粒・白雲母少し。焼成普通。内外面に刷毛目。古墳時代前期の壺。
7	T-6	土師器・壺	褐色、白色粒少し。白雲母多い。焼成普通。外面部は擦過・内面部横ナデ。古墳時代前期の壺。
8	T-8	繩文土器・深鉢	暗褐色、白色粒・白雲母少し。焼成普通。外面部鼓腹部による施文。
9	T-8	繩文土器・深鉢	暗褐色、白色粒・白雲母わずか。焼成普通。外面部鼓腹部による施文。
10	T-9	須恵器・壺	明灰褐色、白色粒多い。白雲母少し。焼成やや悪い。内面にかすりがわざかに残る。
11	T-9 SI-1	須恵器・壺	灰褐色、白色粒・白雲母少し。焼成普通。内面にかすりがわざかに残る。
12	T-9 SI-1	土師器・壺	暗褐色、白色粒・白雲母多い。焼成普通。
13	T-16	弥生土器・壺	黄褐色、白色粒・白雲母多い。焼成普通。繩文と刻突文。
14	T-17	繩文土器・深鉢	黄褐色、白色粒多い。焼成良好。横の2本筋に波状文。
15	T-19	繩文土器・深鉢	暗棕褐色、白色粒・金雲母多い。焼成良好。強い横ナデ。底位にへら状工具による施文。
16	T-25	繩文土器・深鉢	暗褐色、白色粒多い。焼成普通。外面部押引文。
17	T-25	繩文土器・深鉢	暗褐色、白色粒少し。白雲母多い。焼成普通。繩文をメインに陰帯に刻み目を施す。
18	T-25	繩文土器・深鉢	褐色、白色粒少し。施成良好。外面部羽状繩文。
19	T-28	繩文土器・深鉢	暗褐色、白色粒多い。焼成普通。外面上に羽状繩文。
20	T-29	繩文土器・深鉢	暗褐色、白色粒少し含む。焼成普通。横の2本筋に刻突文。
21	T-30	古瀬戸か・壺	黄白色、淡褐色、白色粒少し含む。焼成普通。
22	T-31	繩文土器・深鉢	暗褐色、白色粒少し。焼成普通。縦の2本筋。
23	T-31	繩文土器・深鉢	黄白色、白色粒少し。焼成普通。外面部条痕。
24	T-31複乱	土師器・壺	暗褐色、白色粒少し。焼成良好。外面部刷毛目。
25	T-31複乱	生土器・か・壺	暗褐色、白色粒少し。焼成普通。外面部磨り消し繩文。朱塗り?
26	T-31複乱	土師器・壺	褐色、白色粒少し。焼成普通。外面上に刷毛目。
27	T-31複乱	須恵器・壺	明青灰褐色、白色粒少し。白雲母多い。焼成やや悪い。内面にかすり残る。

### 35 東ノ辻遺跡

①所在地 石岡市石岡字只砂2313番28 ②開発面積 333m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年12月19日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。地山確認面までの深さは40～45cm程度。

### 36 杉ノ井遺跡（第3地点）

①所在地 石岡市杉並3丁目12587番2 ②開発面積 498m<sup>2</sup> ③調査日 平成25年1月21日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、縄文土器や土師器・須恵器の小片が出土したものの、遺構 図35 杉ノ井遺跡（第3地点）は確認されなかった。ローム面までの深さは65～85cm程度。⑦遺物 1は 出土遺物（S=1/3）帆織を含む縄文時代前期の土器。赤褐色～にぶい褐色。白色粒、白雲母・黄褐色粒・半透明粒少量含む。試掘トレンチ出土。



0 5cm

### 37 杉ノ井遺跡（第4地点）

①所在地 石岡市杉並3丁目12587番3 ②開発面積 355m<sup>2</sup> ③調査日 平成25年1月21日 ④調査原因 資材置場 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に4ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。なお、開発地の東側は周辺との比高差が70cm前後あり、盛土されていると考えられたため、試掘トレンチは西側を中心に設定した。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは40～65cm程度。

### 38 国分遺跡

①所在地 石岡市府中5丁目8539-1 ②開発面積 721m<sup>2</sup> ③調査日 平成25年1月23日 ④調査原因 集合住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に7ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは80～110cm程度であり、60～80cm程度の盛土がされていていた。⑦遺物 盛土中より、大正11年の10銭硬貨が出土している（写真21）。



写真21 国分遺跡 出土遺物

### 39 茨城庵寺跡（試掘2次）

①所在地 石岡市貝地1丁目1573 ②開発面積 1m<sup>2</sup> ③調査日 平成25年1月24日 ④調査原因 電柱立替 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発地は、過去の発掘調査の結果から茨城庵寺跡の寺院地の範囲内と考えられたため、試掘調査を行った。開発区域（電柱建替予定地）に50cm×50cm程度の試掘トレンチ1ヶ所（G-6T）を人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、埋没谷を確認したが、遺構は確認されなかった。谷覆土を掘り下げたところ、表土下90cm程度でローム層を確認した。遺物は、表土および谷覆土より流れ込みと考えられる土師器や瓦片（奈良・平安時代）が出土した。

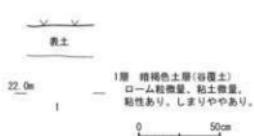


図 36 G-6T 南壁セクション図 (S=1/30)



写真 22 G-6T

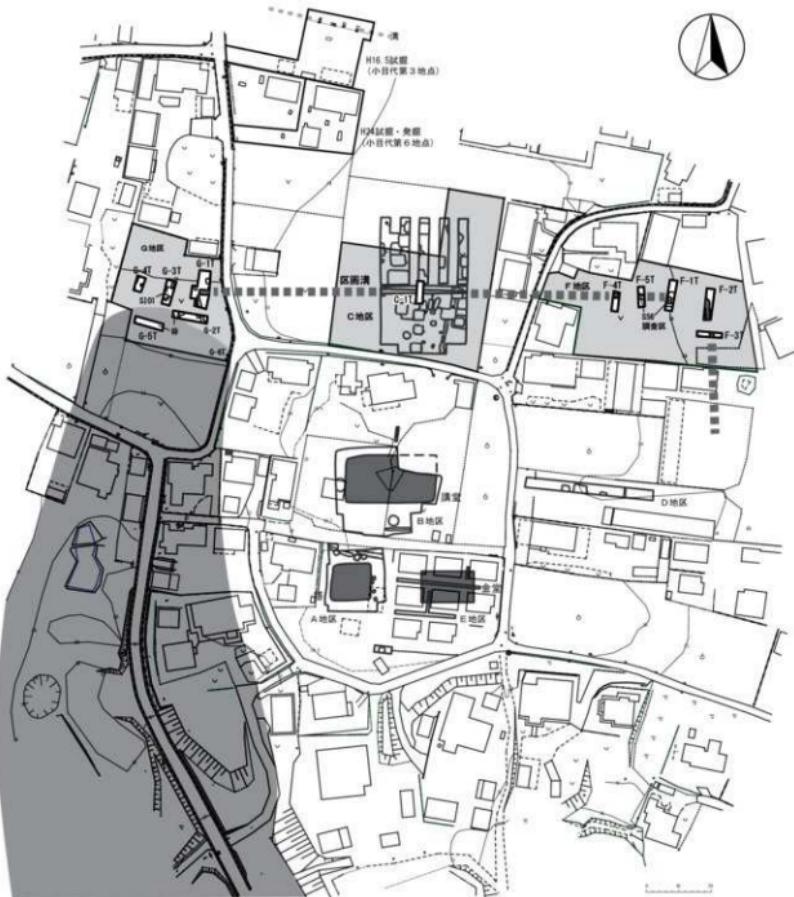


図 37 茨城庵寺跡 全体図 (S=1/1,500)

40 東大橋原遺跡

- ①所在地 石岡市東大橋字深久保2059番1 ②開発面積 988m<sup>2</sup> ③調査日 平成25年1月25日 ④調査原因  
通信用無線基地局建設 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥調査概要 開発区域内外に開発区域内に8ヶ所の試掘トレチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。ローム面までの深さは30～50cm程度。

#### 41 鹿の子遺跡（第44次）

- ①所在地 石岡市鹿の子4丁目1999番1、1999番3 ②開発面積 1,691m<sup>2</sup> ③調査日 平成25年1月30日～31日 ④調査原因 社会福祉施設建設 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に22ヶ所の試掘トレーナーを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発地は全域で1m以上の盛土が行われていた。盛土を掘り下げたところ、東側では深さ120cm程度でローム層を確認したが、西側では140cm程度まで掘り下げたがローム層を確認できなかった。したがって、開発地は谷地形であったのが埋め立てられ、現在の平坦地に造成されたと判断した。遺構・遺物は確認されなかった。

42 弥陀ノ台遺跡

- ①所在地 石岡市小井戸500番1  
ほか ②開発面積 6,000m<sup>2</sup> ③  
調査日 平成25年2月4日～3月5日 ④調査原因 市道改良  
⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥  
調査概要 開発区域内に113ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代の豊穴住居跡や土坑、

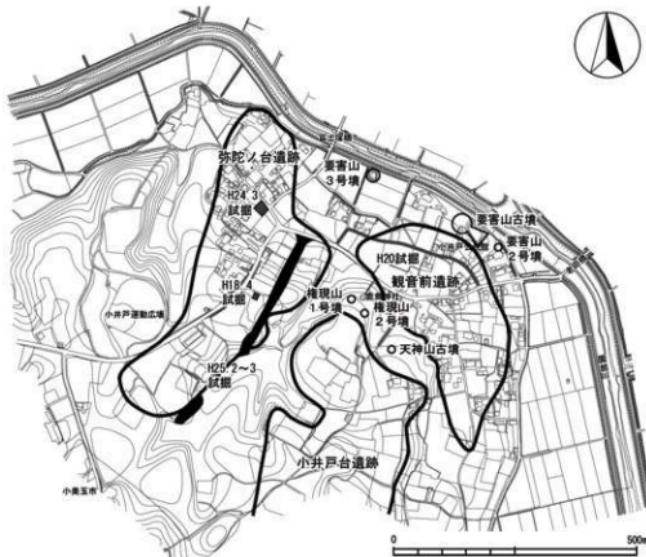


図38 弥陀ノ台遺跡 調査地点位置図 (S=1/10,000)

館に伴うと考えられる整地面や溝、土坑を確認した。この開発に伴い、平成25年度に発掘調査を実施しており、詳細は発掘調査報告書に譲る。

### 43 杉ノ井遺跡（第5地点）

- ①所在地 石岡市杉の井12745番1 ②開発面積 850m<sup>2</sup> ③調査日 平成24年2月13日 ④調査原因 長屋住民

宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に3ヶ所の試掘トレーンを重機にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、奈良・平安時代の堅穴住居跡や土坑、ピットを確認した。平成25年4月に追加の試掘調査を行っており、詳細は次年度の報告書にて合わせて報告する。

#### 44 鹿の子遺跡（第45次）

①所在地 石岡市鹿の子2丁目2734番の一部 ②開発面積 520m<sup>2</sup> ③調査日 平成25年2月15日、19日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 調査地は昭和54年に発掘調査が実施された地点（鹿の子第1次）の西側にあたる。第1次調査地点では、調査区

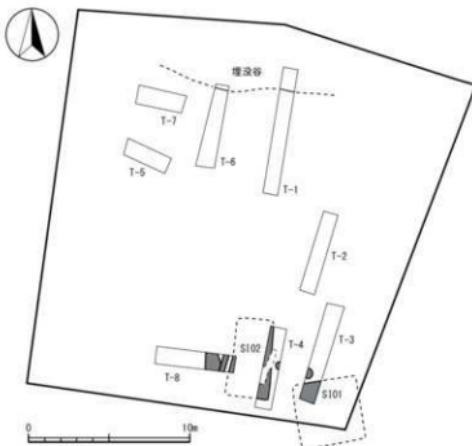


図39 鹿の子遺跡（第45次）全体図 (S=1/300)



写真23 鹿の子遺跡（第45次）T-4（北から）

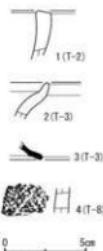


写真24 出土遺物

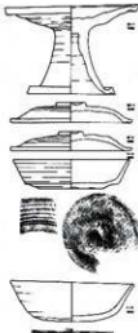
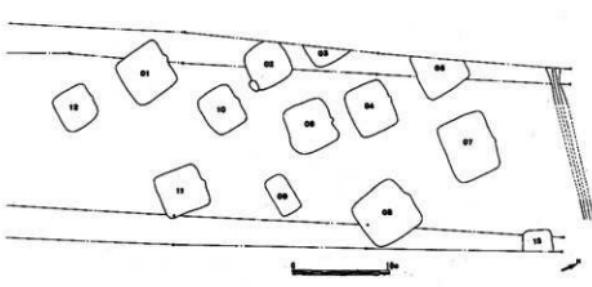


図41 鹿の子遺跡（第1次）

北側に東西方向の溝（幅1～1.3m、深さ90cm程度）が走り、それに平行する形で竪穴住居群が営まれている（図41、伊東1980）。出土土器から8世紀前半まで遡ると考えられ、また楕円形溝や羽口、砥石が出土していることから、いわゆる鹿の子C遺跡（鹿の子第2次）が出現する以前の国衙工房と指摘されている（川崎・伊東・黒澤・海老沢・堀越1984）。

開発区域内に8ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発区域の南側において竪穴住居跡2軒（SI01～02）および土坑3基（SK01～03）、溝1条（SD01）を確認した。また、土師器・須恵器・鉄滓（奈良・平安時代）、繩文土器、土師質土器（中世）が出土している。遺構確認面までの深さは25～45cm程度。一方、開発区域の北側では、北端において埋没谷を確認したが遺構は確認されなかった。

⑦遺物 1は土師質土器の鍋。褐～黒褐色。外面煤付着。黒雲母・白色粒・黄褐色粒少量含む。T-2出土。2は土師器の壺。淡褐色。黒雲母・白色粒・半透明粒・黄褐色粒少量含む。T-3出土。3は灰白～灰褐色。白雲母・赤色粒少量・白色粒・黄褐色粒微量含む。T-3出土。4は纖維を含む繩文時代前期の土器。暗赤褐色。黄褐色粒・白色粒少量・透明粒微量含む。T-8出土。⑧まとめ 出土遺物は少ないものの、第1次調査地点と同じく8世紀前葉までさかのほる土器や鉄滓が出土している。また、SI02は東西幅2.5m、南北幅4.5m以上と長方形を呈しており、鍛冶工房の可能性の高い第1次調査の9号住居址との共通性が認められる。第1次調査の東西方向の溝の延長は確認されなかったものの、引き続き「国衙工房」の可能性も含め、注視していく必要があるだろう。

<引用文献>

伊東重敏1980『常陸国鹿鬼塚遺跡（附 同国鹿の子遺跡予報）』茨城県道路公社

川崎純徳・伊東重敏・黒澤彰哉・海老沢稔・堀越徹1984『シンボジウム鹿の子遺跡と常陸の古代』蔵書房

#### 45 田崎遺跡

①所在地 石岡市茨城3丁目14377 ②開発面積 3,095m<sup>2</sup> ③調査日 平成25年2月20日～3月11日 ④調査原因 宅地造成 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に44ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発区域の北側において中世の土坑を確認した。平成25年6月に追加の試掘調査を行っており、詳細は次年度の報告書にて合わせて報告する。

#### 46 東大橋（末周知）

①所在地 石岡市東大橋字逆井2840ほか ②開発面積 5,960m<sup>2</sup> ③調査日 平成25年3月6日～7日 ④調査原因 市道整備 ⑤調査担当者 谷伸俊雄 ⑥調査概要 開発区域内に47ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、表土中より繩文土器の小片が出土したが、遺構は確認されなかった。ローム面までの深さは20～40cm。なお、T-18において径1m程度の土坑（SK01）、T-30において径0.3m程度のピット（P01）を確認した。だが、確認面において遺物の出土はなく、遺構かどうかの判断がつきかねた。そこで、その確認・判断のため、掘り下げを行った。各トレンチ内は完掘したが、遺物の出土は皆無であり、発掘



図42 東大橋 調査地点位置図 (S=1/15,000)

調査の対象となる遺構との判断はしなかつた。今回の開発に伴い、平成26年度以降も試掘調査を実施予定であり、遺物については合わせて報告する。

#### 47 東成井（未周知）

- ①所在地 石岡市東成井字鶴沼1619ほか
- ②開発面積 38,569m<sup>2</sup>
- ③調査日 平成25年3月26日～29日
- ④調査原因 太陽光発電施設
- ⑤調査担当者 谷伸俊雄
- ⑥調査概要 周知の遺跡の範囲外だが、長原遺跡の隣接地にあたることから試掘調査を行った。長原遺跡は、国道355号線石岡岩間バイパス整備に伴い茨城県教育財団によって発掘調査が行われ、縄文時代の陥り穴が検出されている（大久保2010）。

また、今回の開発地の北側隣接地の試掘調査を平成23年10月に実施している（小杉山・曾根2013）。開発区域内に49ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。その結果、開発区域の北側で埋没谷を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

⑦遺物 開発区域およびその周辺で採集した遺物を紹介する。1は縄文土器。暗赤褐色。角閃石・白色粒・黄褐色粒・砂粒少量含む。2は土師器。外面に「×」の刻画？あり。にぶい褐色。角閃石、

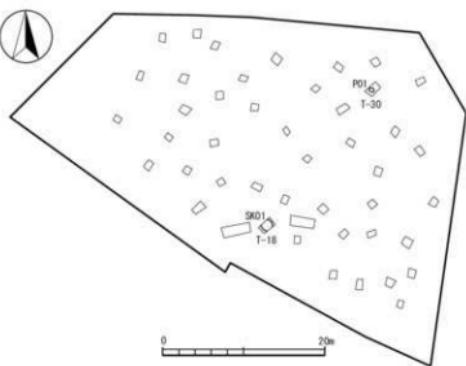


図 43 東大橋 全体図 (S=1/500)



写真 25 東大橋 調査地点風景

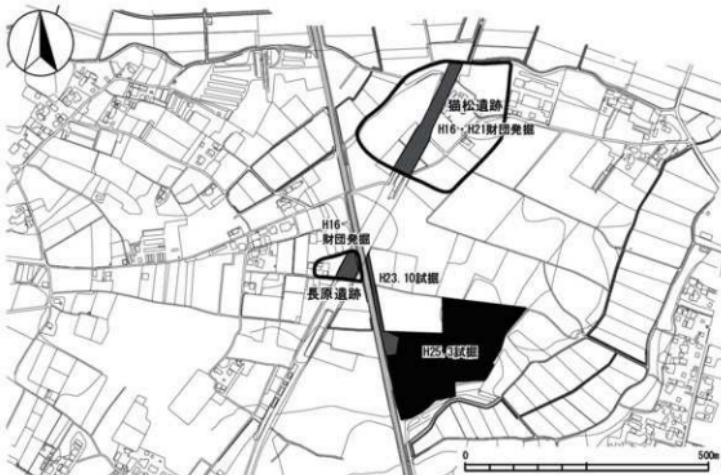


図 44 東成井 調査地点位置図 (S=1/10,000)

黄褐色粒少量、白色粒微量含む。

<引用文献>

大久保隆史2010「新松道跡－長原遺跡－国道355号線石岡岩間バイパス整備事業

地内埋蔵文化財発掘調査報告書－」茨城県教育財团文化財調査報告第348集

小杉山大輔・曾根俊雄2013「市内遺跡調査報告書 第8集」石岡市教育委員会



図45 東成井 採集遺物 (S=1/3)